

Asianalysis XIII (タイ・チェンマイ) に参加して

愛知工業大学大学院工学研究科 一杉 理香

1. はじめに

皆さん、タイのチェンマイという都市はご存知でしょうか。バンコクの北方約 720 キロに位置するタイ第 2 の都市チェンマイは、「北方のバラ」とも称される美しい古都です。工芸が盛んな街として知られ、近年はその伝統をベースにタイ芸術の拠点ともなっています。また、周辺はタイ最高峰ドイ・インタノンをはじめとした峰々が重なる緑豊かな山岳地帯となっており、乾季（11 月～1 月）は平均気温が約 25℃と平野部より過ごしやすいことから、避暑地としても人気があります。

2016 年 12 月 7 日から 5 日間、私はチェンマイで開かれた国際学会 Asianalysis XIII に参加しました。私はそれまで海外旅行も、ましてや飛行機にも一度も乗ったことがなく、不安でいっぱいでした。実際に飛行機に乗ると、機内からの景色や、機内食など初めて尽くしの体験で、とても楽しかったです。また現地でも愛知工業大学のラボに留学していた友人たちと再会し、学会はもちろん、観光やホームパーティーでも英語でコミュニケーションをとり、学生生活最後の冬に、とても良い経験をさせていただくことができました。

2. 学会の様子

学会は 8 日から 4 日間行われ、口頭発表はもちろんポスター発表も行われました。私はポスター発表に参加させていただき、多くの人に発表を聞いていただくことができました。質疑応答は英語が一部聞き取れず、苦労しましたが、無事に終え、ポスター賞をいただくことができ、とても嬉しかったです。学会のプログラムには、発表以外にも展示会やディナーなどもありました。展示会では

以前お世話になった方のブースを見に行き、ディナーではタイの演奏などの催しものを楽しみながら食事をしました。



写真 1 Asianalysis XIII 集合写真



写真 2 ポスター発表にて



写真 3 展示会 (Anal. Sci.) ブース

3. タイでの生活

チェンマイでは学会会場近くのホテルに滞在しました。タイのホテルがどんな感じなのか予想がつかず、いろいろスーツケースに詰めてきたのですが、そのほとんどがしっかり用意されていました。また、食事もおなかを壊したりしないか不安だったのですが、そんなこともなく普段通り食べることができました。ただ、やはりパクチーと辛いものは苦手だったようで、パクチーの量や辛さはもう少し控えめがいいかなと思いました。

観光ではエレファントキャンプと寺院に行きました。エレファントキャンプでは想像以上の数の象に驚きました。その象のショーをみたり、象の背中に乗ったりしました。象の背中は大きくて、山道や浅瀬を歩いてもどっしりとした足取りをしていました。寺院ではキラキラした金の建物や、鳥や象のカラフルな像を見ることができました。また、この寺院でタイの昔ながらのトイレを体験したのですが、初めてのスタイルにトイレで変に緊張してしまいました。トイレットペーパーを流さないわりにトイレ内部は不思議と臭いはあましませんでした。



写真 4 エレファントキャンプにて

4. 最後に

今回の執筆にあたり、チェンマイでの数日間を思い出して、改めて良い経験をさせていただいたことを、うれしく思いました。渡航前の不安も、今では、文化の違いを難しく考えすぎていたように思います。

今回の渡航を通して、学会での勉強だけでなく、いろいろな方とのふれあい、懐かしい人達との再会を喜び、またタイの文化に触れることもできました。

最後に、学会でお世話になった先生方、学生さんたち、タイでお世話になったすべての人、そして、指導教員の手嶋先生、酒井先生に本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。



写真 5 寺院にて